はたけ日和

農薬の使い方

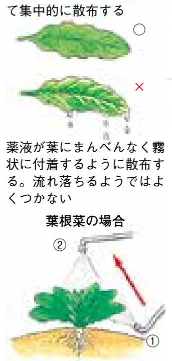
ほとんどの野菜は、人間が利用しやすいように多収、良食味に改良されているので、病害虫にもおかされやすい性質があります。一度被害を受けると元に戻ることは無いので、栽培方法の工夫や農薬を活用して病害虫から守ることが大切です。

殺虫剤や殺菌剤の散布方法

虫が発生したら、噴霧器を使って発生部位を重点的に薬剤散布します。ネギ類やキャベツなどの表面がロウ物質で覆われているものは、殺菌剤や殺虫剤に展着剤を加えて使用しましょう。また、土壌中や茎の中の害虫に効く粒状の殺虫剤は、植え付け前の溝や生育初期に株間にまき、土と混ぜて使用します。

殺虫剤

害虫のいるところをねらって集中的に散布する



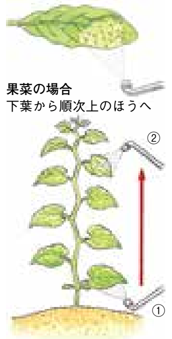
薬液が葉にまんべんなく霧状に付着するように散布する。流れ落ちるようではよくつかない

葉根菜の場合

病害では、病原菌の最も侵入しやすい下葉の裏や茎の基部、病斑のではじめている部位に重点的に散布します。噴霧器を上向きにして下葉から順にかけ、最後に全体の葉の表面にサッとかけます。

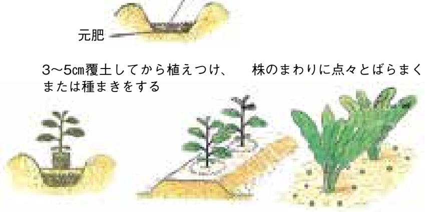
殺菌剤

まず葉裏にかけ、あとから表面にさっとかける



果菜の場合
下葉から順次上のほうへ

殺虫剤のまき方



元肥を施してから溝の中にばらまく

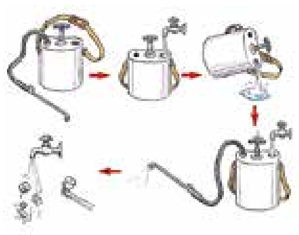
3~5㎝覆土してから植えつけ、または種まきをする

株のまわりに点々とばらまく

農薬の保管方法

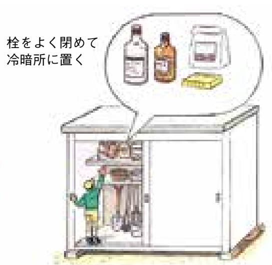
使い残りはしっかりとフタをして、日の当たらない涼しい場所に置けば、1～2年は充分効果が持続します。保存する場合は子どもの手の届かない場所で厳重に取り扱ってください。

噴霧器の保全



使い終わったらよく水洗いしてふたたび水を入れ、ノズルをはずして水を出しよく洗う。ノズルも分水盤をはずしてよく水洗いする

農薬の保存場所



栓をよく閉めて冷暗所に置く

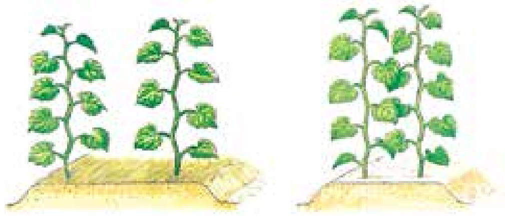
子どもの手の届かないところへ保存する

「JA大井川 農業経営支援課」のオンライン営農相談はコチラから

農薬を使わない方法

病害虫を寄せ付けない野菜づくり

健康体の野菜を作るには、適期を守って種まきや植え付けをします。株間は広めにとって各葉に日光をよく当て、風が流れる状態にしておきましょう。

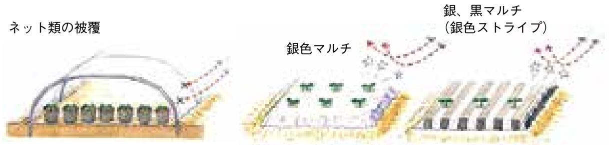


○健全な土、バランスのとれた肥料、畝づくり（排水）、敷きわらなど

×疲れた土、肥料不足、成分バランス不良、排水不良

虫の接触を防ぐ

ウイルス病を媒介するアブラムシ類の飛来を防ぐため、ネット類やべた掛け資材を野菜の上に被覆して物理的に遮断します。また、反射光を嫌う習性を利用し、反射テープや反射性マルチを張り、飛来を軽減する方法も用いられています。

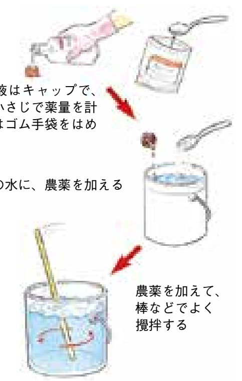

ネット類の被覆
銀色マルチ
銀、黒マルチ
（銀色ストライプ）

農薬を上手に使う方法

農薬を使う前に

農薬を使う時は、ゴム手袋を着用しましょう。薬剤によって適用病害虫と作物、濃度、使用可能回数、収穫前に使用できる日数が違うので、容器や袋に記載されたラベルをよく読み、間違いの無いよう注意してください。

農薬



乳剤の原液はキャップで、水和剤は小さじで薬量を計る。作業はゴム手袋をはめて行う

所定量の水に、農薬を加える

農薬を加えて、棒などでよく攪拌する

> 農薬はなるべく
> 使わないことが理想ですが、
> 病害虫は、発生初期の段階でいち早く
> 防除することで薬剤の使用量も少なくすみ、
> 効果的です。農薬を上手に使い、
> 病害虫の被害を抑えましょう。

初倉営農経済センター
山本 雷太

おすすめ資材

やっかいなセンチュウ退治に！「ネマトリンエース粒剤」

◎規格・価格

2kg 1,650円（税込）

5kg、10kg、20kgも注文できます

初倉営農経済センターがおすすめします！

ネコブ
ネグサレセンチュウ
に
お困りの方へ!!
おすすめです

◎特徴

ネコブセンチュウやネグサレセンチュウに優れた効果を発揮し、処理後すぐに播種や定植することができます。土壌pHや土性、土壌水分、地温などの土壌条件の変動による効果差が少なく、安定した効果を示します。

◎使用方法

播種前または定植前に土壌全面に均一に散布します。表層から20センチ程度の深さまで丁寧に混和してください。適用作物と使用量に注意してください。

畑：10～30kg／10アールあたり

詳しい使い方や使用量は、最寄りの営農経済センターへ